

# 「世界湖沼の日」およびマザーレイクゴールズ (MLGs)に係る取組等について

# 「世界湖沼の日」に係る令和7年度の取組

## ① “過去” を輝かせる

- 先人たちのびわ湖への想いや情熱、行動に改めて光を当て蘇らせる。

## ② “いま” を輝かせる

- MLGsの達成に向けた活動を充実・強化する。
- 気候変動の影響等、従来の取組だけでは解決できない湖沼環境の課題に挑戦する。

## ③ “未来” を “世界” を輝かせる

- 過去を受け継ぎ、自らが学びを深め成長し、行動する若者を育成する。
- 世界に発信・貢献し、世界から見た滋賀・びわ湖の魅力・価値を更に高める。

4

みんなで対話し、共感を広げ、未来を共創する

■「世界湖沼の日」制定記念イベント（R7年8月27日）

■「世界湖沼の日 共創フォーラム」（R8年2月6日）

3

“未来”を“世界”を輝かせる

■「世界湖沼の日」次世代育成（世界湖沼会議への高校生参加/ワークショップ等）

■世界湖沼会議への参加・発信（セッション開催等）

■大阪・関西万博での発信（ブース出展等）

■国際首長フォーラムへの参加・発信

2

“いま”を輝かせる

■びわ活重点期間（びわ湖の日7/1～山の日8/11）を「世界湖沼の日（8/27）」まで延長

■「世界湖沼の日2025」共創チャレンジ（企業・団体等の活動等とコラボ）

1

“過去”を輝かせる

■琵琶湖保全再生レガシー継承（高校生や大学生が先人たちの想いや取組等を取材／保全再生の歴史のアーカイブ化・公開等）

■琵琶湖博物館での「世界湖沼の日」記念事業

・「世界湖沼の日」制定を契機とした多様な連携の促進  
・湖沼環境保全に係る機運の一層の醸成



# 「世界湖沼の日」共創フォーラム

■名称:【世界湖沼の日制定記念】琵琶湖とともに生きる未来を考えるフォーラム ～過去から今、そして未来へ～

■開催日:令和8年2月6日(金)

■場所:栗東芸術文化会館SAKIRA 中ホール

■参加者数:約230人

## 1 話題提供

(敬称略)

■活動者や学生が世界を見据えた琵琶湖の状況や保全の取組、それに対する思いを報告。

- ・マーシー(生き物系YouTuber)
- ・ピーター・D・ピーダーセン(NPO法人NELIS代表理事)
- ・大学生2名(立命館大学、NPO法人国際ボランティア学生協会)

## 2 パネルディスカッション

■1の話題提供者に加え、琵琶湖保全関係者、企業関係者、高校生・大学生、三日月知事が琵琶湖保全の過去を振り返り、琵琶湖の現状を知り、琵琶湖とともに生きる未来について議論。

- ・琵琶湖保全関係者:藤井 絢子(菜の花プロジェクトネットワーク元代表)、藤本 秀弘(山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会元事務局長)、谷口 良一(マキノ自然観察倶楽部代表)、辻 ひとみ(夢・びわ湖代表)
- ・企業関係者:小玉 恵(たねやグループ経営本部 本部長)、辻 喜勝(辻プラスチック株式会社 取締役)
- ・大学生2名(立命館大学)、高校生1名(立命館守山高等学校)

(主な意見)

○琵琶湖保全関係者

- ・当時、水道水が生臭く、琵琶湖に何が起きたか分からず見に行き、湖面の変化だけでなくプランクトンにまで影響が及んでいたことに衝撃を受けた。
- ・琵琶湖や森林にまずは触れ、知ることから。自然に関心を持つ人を増やしていきたい。

○企業関係者

- ・県内で事業をする際は、生態系保全と調和した進め方を工夫している。滋賀の自然を大事にしていきたい。
- ・海外では、水は大変貴重なもの。飲料水確保のための浄化技術のアフリカ展開においては、水の奪い合いが新たに起きないように調整している。

○高校生・大学生

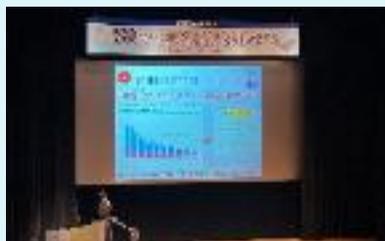
- ・私達若い世代が、未来に綺麗な琵琶湖を残すため、責任を持ち行動しなければいけない。
- ・若者のエネルギーを今回伝えることができた。
- ・学生のうちでないと環境保全活動はできないのかなと思っていたが、社会人になっても活動はできると改めて知ることができてよかった。

## 3 企業・団体のブース出展

■琵琶湖保全に取り組む17企業・団体が出展し、交流。

## 【参考】座談会(1月25日(土))

- 2月6日に先立ち、2の琵琶湖保全関係者に高校生・大学生を交えた座談会を開催。
- 琵琶湖保全再生のこれまでの歩みをアーカイブ化し、公開予定。



# 「世界湖沼の日」に係る令和8年度の取組予定



## 令和7年度

2024年12月  
「世界湖沼の日(8/27)」制定

- ✓琵琶湖の保全に係る歩みの整理(アーカイブ化等)
- ✓情報発信・交流促進(びわ活重点期間の延長、自治体連携による共同発信、関係者との共創、制定記念フォーラムの開催等)
- ✓次世代育成・世界への発信(世界湖沼会議への参加・高校生派遣、大阪・関西万博での発信)  
→ レガシー(事業の成果)・・・関係者のつながり強化、琵琶湖の保全に係る発信コンテンツの作成など

## 令和8年度

令和7年度のレガシー(事業の成果)を活用し、「世界湖沼の日」制定を契機とした情報発信・連携推進事業を実施

- 企業や学生等を対象としたワークショップの開催
- 「世界湖沼の日」共創イベントの開催(8/27)  
・「みんなのBIWAKO会議」(同日開催予定)と連携し、海外関係者等との交流イベント開催
- 自治体連携  
・全都道府県との共同メッセージ発信(8/27)  
・指定湖沼自治体や下流域自治体等との連携
- 第11回世界水フォーラム(サウジアラビア)への参加
- びわ活重点期間(「びわ湖の日7/1」～「世界湖沼の日8/27」)

# MLGsに係る令和7年度の取組

■令和7年度のMLGs推進事業では、「ひろげる」、「つなげる」、「ふかめる」3つの取組を重点事項に事業を実施

## ひろげる

- ◆ 賛同者、ロゴマーク利用は継続して増加
- ◆ 認知度は25%程度で横ばい

### 賛同者数

1,961者



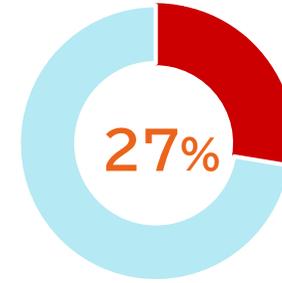
### ロゴマーク利用

383件



2026/3/5時点

### 認知度



令和7年度 県政世論調査

### 情報発信

MLGs WEB等掲載 YouTube配信  
107回 11回

月間ページビュー数  
39,900 PV/月

## つなげる

- ◆ 賛同者間の取組を共有
- ◆ 個々の活動同士をつなげ、新たな展開が生まれる機会を創出

### みんなのBIWAKO会議

参加者数  
370名

出展団体・企業数  
35者

### ワークショップ

共催・連携含む  
41件

延べ参加者数  
4,007人



みんなのBIWAKO会議(8/27)



ロゴマーク利用例  
米原市 国スポ障スポ看板

## ふかめる

- ◆ 活動に取り組んでいる層に対して、さらに取組が加速するように協力・支援

### 依頼講演

学校・企業での講演  
54件

### 環境学習

授業での実践  
11件



奈良市立一条高等学校附属  
中学校での講演(6/5)



道徳の教科書(中学3年生対象)での  
MLGsの取組紹介  
(令和7年3月発行「中学道徳3」教育出版)

# MLGsに係る令和7年度の取組

## ひろげる

- 大阪・関西万博(8/27-29)  
TEAM EXPO(9/19-21)  
フューチャーライフエクスペリエンス(9/23-25)

ワークショップ体験者  
**363人**  
延べ参加人数  
**72,000人**



- 第20回世界湖沼会議(7/21-25)  
(オーストラリア)

会議参加者  
**322名**  
27か国  
参加セッション  
(主催含む)  
**4セッション**



- 国スポ障スポ大会での  
発信(MLGs宣言)



## 取組の成果

### ①発信力の拡大とブランド確立

- ✓「ローカルSDGs」として  
**国際的な共感**を得た
- ✓SDGsに関心のある企業や自治体、  
教育機関との新たな接点を創出

## つなげる

世界湖沼の日制定  
記念フォーラムと連携

- 世界湖沼の日に開催(8/27)  
『みんなのBIWAKO会議／COP4』

✓ **ブースセッション**で  
新たなつながり創出  
参加者 **370人** 出展者 **35者**



- 滋賀県SDGs事業こどもBASEとの連携ワー  
クショップ(3/4)

- ✓こどもBASEとの連携し、子  
ども向けMLGsビンゴゲームを  
制作
- ✓学童施設において遊びなが  
ら琵琶湖の未来を考えるワー  
クショップを連携して実施



### ②多様な主体の参画拡大と ネットワーク強化

- ✓MLGsを切り口として、**多様な主体**  
が緩やかにつながる場を構築
- ✓**企業・NPO・大学・若者世代**が参画

## ふかめる

- しが環境教育研究協議会(7/31)

- ✓環境教育の指導にあたる  
教員向け研究会にて  
「**MLGsとのつながりを意  
識した環境学習**」をテーマ  
として設定
- ✓県内小中高の**教員100名**  
が出席



- 県立伊香高等学校での導入(11/4、18)

- ✓「持続可能な社会づく  
り」というMLGsを教材  
に、**地元の地域資源を  
活用したツアープラン**  
を提案



### ③共感から実践へ －行動変容の芽の創出

- ✓MLGsを「**知っている段階**」から、  
**具体的な「行動を起こす段階**」へと  
**進展**
- ✓**学校・企業**での**自主的取組**が多数  
**展開**

# MLGsに係る令和8年度の取組予定

## 現状・課題

- MLGsの認知度は、25%程度で横ばい傾向。
- MLGsの目標年である令和12年(2030年)に向け、MLGsの更なる推進やポストMLGsについての検討が必要。



令和8年度(2026年度)は、令和3年(2021年)7月のMLGs策定から5年目の中間年

- 1 目標やこれまでの取組に係る中間評価
- 2 中間評価も踏まえた2030年に向けた取組の加速化
- 3 ポストMLGsの検討開始

## 1 中間評価

○ 13のゴールについて達成状況の評価

○ これまでの取組の成果や課題を整理し、今後の効果的な推進方策を検討

○ 評価結果を分かりやすく整理し、SNS等で公表。

## 2 取組の加速化

○ みんなのBIWAKO会議の開催  
(8/27世界湖沼の日)

- 「世界湖沼の日」イベント(同日開催予定)と連携
- 特に若年層(中高大生等)の参画機会を確保

○ 多様な層を対象としたワークショップの開催

- 幅広い分野(森林、CO<sub>2</sub>、経済、生物多様性等)のイベント等と連携したワークショップ など

○ SNS等を活用した効果的な情報発信

○ 「びわ活」との更なる連携

## 3 ポストMLGsの検討開始

○ MLGsの中間評価結果や、ポストSDGsの国内外の動向等も踏まえ、ポストMLGsの検討を開始



Mother Lake Goals

# 【参考】琵琶湖保全再生施策に関する計画(第3期)(案)

1 計画期間 令和8年度～令和12年度（5年間）

## 2 計画の重点ポイント

気候変動による影響への対応	水産資源（アユ等）、琵琶湖の生態系や物質循環等
良好な水質と豊かな生態系の両立	漁場環境の保全再生等、水質と生態系が両立する新たな水質管理の検討
ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現	外来動植物の防除、鳥獣害対策、生物多様性の取組推進等
琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた産業の振興、琵琶湖周辺環境の魅力向上	環境と調和のとれた農林水産業の振興、シガリズム・ビワイチ・THEシガパークの推進
好機を生かした取組推進	世界農業遺産（琵琶湖システム）、世界湖沼の日、DC

## 3 策定に係る経緯

(1) 琵琶湖・森林・防災対策特別委員会

令和7年5月26日 策定概要、6月27日 骨子案、10月14日 素案、12月16日 原案、令和8年2月16日 案

(2) 環境審議会

令和7年5月12日 総会（諮問）、琵琶湖保全再生部会（6月11日、10月1日、11月26日） 12月2日 答申

(3) 国、関係府県市、県内19市町への意見照会

令和7年10月7日 計画素案に係る意見照会（任意）

国：総務省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省  
関係府県市：京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市

(4) 県民政策コメントおよび法定意見聴取（関係府県市、県内市町）

令和7年12月17日～令和8年1月16日 県民政策コメントは19者、67件、法定意見聴取は3団体、6件の意見

(5) 国への法定協議

令和8年2月19日 各主務大臣あてに法定協議を実施

令和8年3月 各主務大臣からの協議了の通知

（総務大臣3/4、文部科学大臣3/11、農林水産大臣3/6、国土交通大臣3/9、環境大臣3/11）

(6) 今後の予定

令和8年3月中 計画策定

# 【参考】 令和8年度当初予算(案) 計画関連事業

【予算額 494.7億円】

※前年度比 +65.5億円 (約115%)

■ 主な増要因

- ・ 3 (1) 流域下水道事業 (汚泥燃料化施設の建設、受変電設備の更新、物価高騰対応等) + 52.6億円
- ・ 3 (5) 県営経営体育成基盤整備事業 (大区画化や用排水路の整備等) + 4.5億円

■ 主な減要因

- ・ 6 木育拠点施設 (しがモック) 整備事業 (整備が一定終了) ▲ 1.6億円

上記のほか、令和7年度補正予算あり (国補正予算対応による令和8年度当初予算前倒し分) +約44.3億円  
 (・ 県営経営体育成基盤整備事業 + 14.4億円 ・ 県営かんがい排水事業 + 12.7億円 ・ 砂防事業 + 9.7億円)

(単位：千円)

計画の項目	予算額等	令和7年度当初予算額 A			令和8年度当初予算額 B			増減 B - A		
		予算額	財源内訳		予算額	財源内訳		予算額	財源内訳	
			国費	一般財源等		国費	一般財源等		国費	一般財源等
3 琵琶湖の保全および再生のための事項		41,423,094	17,286,650	24,136,444	47,984,349	20,464,493	27,519,856	6,561,255	3,177,843	3,383,412
(1)水質の汚濁の防止および改善に関する事項		24,473,230	9,315,046	15,158,184	29,684,348	11,818,000	17,866,348	5,211,118	2,502,954	2,708,164
(2)水源の涵養に関する事項		10,700,454	5,543,820	5,156,634	10,728,004	5,518,031	5,209,973	27,550	▲ 25,789	53,339
(3)生態系の保全および再生に関する事項		968,198	186,552	781,646	1,322,963	252,115	1,070,848	354,765	65,563	90,251
(4)景観の整備および保全に関する事項		198,951	0	198,951	504,640	148,991	355,649	305,689	148,991	355,649
(5)農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項		5,082,261	2,241,232	2,841,029	5,744,394	2,727,356	3,017,038	662,133	486,124	176,009
4 琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項		420,523	56,027	364,496	412,017	56,569	355,448	▲ 8,506	542	▲ 9,048
5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項		98,565	5,225	93,340	84,572	2,500	82,072	▲ 13,993	▲ 2,725	▲ 11,268
6 琵琶湖保全再生施策の実施に資する体験学習を通じた教育その他の教育の充実に関する事項		980,790	16,890	963,900	992,524	53,426	939,098	11,734	36,536	▲ 24,802
合計		42,922,972	17,364,792	25,558,180	49,473,462	20,576,988	28,896,474	6,550,490	3,212,196	3,338,294

# 【参考】重点ポイントごとの主な事業

## 1 気候変動による影響への対応

( )は令和7年度当初予算額

アユ等水産資源維持保全事業費	45,034千円 (44,272千円)	産卵用人工河川にアユ親魚を放流し、仔魚を効果的に琵琶湖へ流下させることで、アユ資源の安定維持を図る。
アユ産卵用人工河川の気候変動適応化技術開発事業 ㊦	19,990千円 ( )	人工河川から流下したアユ仔魚の動態や生育環境を調査することで、気候変動下での人工河川の現状と課題を把握し、効果的な運用方法を明らかにする。
気候変動が琵琶湖の生態系と物質循環にもたらす影響に関する研究 ㊦	21,646千円 ( )	良好な水質と豊かな生態系の両立に向け、気候変動が琵琶湖の生態系や物質循環に及ぼす影響を明らかにする研究を実施する。水産資源に関しては、気候変動の影響によるプランクトンの季節的増減の変化と、アユ仔魚の琵琶湖への流下時期との関係等について検証を行う。
災害に強い森林づくり事業	10,000千円 (10,000千円)	風倒木等被害対策としての予防伐採の実施や、里山における獣害防止機能の強化により、災害に強い森林づくりを目指す市町の取組を支援する。
「オーガニックといえば滋賀」ブランド化推進プロジェクト	10,300千円 (23,816千円)	オーガニック農業の拡大の柱である「きらみずき」の取組拡大と情報発信の強化により「オーガニックといえば滋賀」という産地ブランドの確立を目指す。

## 2 良好な水質と豊かな生態系の両立

琵琶湖の漁場生産力の評価および回復に関する技術開発研究	4,327千円 (6,915千円)	アユを含む水産資源において成長不良等による資源の不安定化が顕在化しているため、琵琶湖の魚を育む力(=漁場生産力)を評価するとともにその回復手法の検討を行う。
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業	36,682千円 (24,158千円)	漁業者や地域住民を中心とした活動組織が行う漁場環境改善(湖底や河床の耕耘、清掃活動、外来魚駆除等)を支援することで、漁場生産力の維持・回復を図る。
西の湖における水質改善実証モデル事業	14,600千円 (14,600千円)	水質悪化やアオコの発生が頻繁に見られる西の湖において、水質悪化の原因究明を進め、アオコの発生抑制に向けて水質および底質の改善に係る実証実験等を実施する。

# 【参考】重点ポイントごとの主な事業

## 3 ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

有害外来魚ゼロ作戦事業	22,467千円 (22,467千円)	オオクチバスやブルーギルのさらなる抑制のため、またチャンネルキャットフィッシュの急激な増加を防ぐため、効率的な駆除事業を展開する。
侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業	189,544千円 (170,302千円)	琵琶湖の生態系への影響が懸念されているオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウ等の侵略的外来水生植物について、戦略的な防除を行うとともに、希少種の生育環境等の保全事業に取り組む市町を支援する。
ニホンジカ対策事業	140,149千円 (143,971千円)	市町等が実施するニホンジカの捕獲事業に助成するとともに、捕獲条件が厳しい奥山等でニホンジカの調査や捕獲を行う。
カワウ対策事業	15,043千円 (14,276千円)	市町等が実施するカワウの捕獲事業等に助成するとともに、竹生島等の大規模営巣地でカワウの捕獲を行う。
第二種特定鳥獣対策推進事業	116,014千円 (110,167千円)	ニホンジカ、イノシシおよびニホンザルについて市町等が実施する捕獲事業に助成するとともに、生息動向のモニタリング調査等を行う。
水草刈取事業・水草除去事業	203,828千円 (214,711千円)	水草の大量繁茂が生活環境や生態系などに深刻な影響を与えるため、水草の表層刈取りや根こそぎ除去を実施する。また、刈り取った水草は農地で有効利用し、資源循環を図る。
生物多様性しが戦略推進事業 <sup>①</sup>	5,192千円 ( - )	「生物多様性しが戦略2024」に基づき、企業等による保全地域の拡大等に向け、「しがネイチャーポジティブネットワーク」を活用し、多様な主体による連携を進める。

## 4 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた産業の振興、琵琶湖周辺環境の魅力向上

THEシガパーク魅力発信推進事業	17,847千円 (12,000千円)	THEシガパークにおけるSNS等を通じた情報発信やイベント開催等を行うことで、魅力の向上を図る。  ※県全体のTHE シガパーク関連予算 約11.4億円
環境こだわり農業支援事業	441,823千円 (474,520千円)	農業の持続的な発展と農業の有する多面的機能の発揮を図るために、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い農業生産活動を支援する。

# 【参考】重点ポイントごとの主な事業

## 4 【続き】琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた産業の振興、琵琶湖周辺環境の魅力向上

しがスマート林業実践事業	16,043千円 (18,225千円)	高性能林業機械やICTなど最新技術を活用した、効率的で収益性の高いスマート林業を実践できる人材を育成することにより、県内全域で主伐・再生林による循環型林業を推進する。
ビワイチ観光推進事業	51,192千円 (54,103千円)	ビワイチの魅力を国内外に発信するとともに、子どものビワイチ体験の促進、レンタルサイクルの利便性向上によりビワイチの体験者層の拡大を図り、本県の観光振興および活力ある地域づくりを進める。
自然資本の地域活動やビジネスへの活用事業 ⑧	41,644千円 ( - )	国立環境研究所琵琶湖分室と連携し、琵琶湖の生物分布や水環境の可視化に向けた連携研究を実施する。また、これらの研究成果を多様なステークホルダーの協働による地域での保全事業等に活用するとともに、ビジネス化に向けたモデル構築を進めることで、自然と経済が両立する持続可能な地域発展とネイチャーポジティブの同時達成を推進する。

## 5 好機を生かした取組推進

「世界農業遺産」プロジェクト推進事業	21,320千円 (24,530千円)	世界農業遺産「琵琶湖システム」を最大限活用し、「学ぶ」「食す」「訪れる」を事業の柱とし、琵琶湖システムを知り、体感する機会を提供することにより、県産農水産物の高付加価値化や観光資源としての活用等につなげ、滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ。
「世界湖沼の日」制定を契機とした情報発信・連携推進事業	5,052千円 (23,043千円)	「世界湖沼の日」制定を契機とし、持続可能な湖沼管理の推進に向け、海外関係者等との交流イベントやワークショップの開催、第11回世界水フォーラムへの参画等を通じ、琵琶湖の保全再生の取組やMLGs等を国内外に発信するとともに、自治体・企業・団体等の連携を推進する。
滋賀デスティネーションキャンペーン推進事業	150,354千円 ( - )	令和9年秋(10月～12月)にJRグループ6社と本県が協力して実施するデスティネーションキャンペーンの準備を進めるため、滋賀県シガリズム・デスティネーションキャンペーン推進協議会に対して負担金の拠出等を行う。